

(別誌)

演説要旨

学議団員

朝井重造

私は斯様な如く申話しますのは始末でありませぬから、その通りを申話して頂きたい、  
 私は今園之係田工場労働者と就き申話しなすと思ひます、同じ工場は外部から見ると、定に  
 労働者と見えます、が内容は定に申話になりませぬ、諸君我々の喰ひものは申話にならない  
 い餘の喰ひ物はなもく喰ひてある、吾々人間は動物扱ひをせぬ、此の意味に於て茲に  
 演説を同僚と諸君に申話し批判を仰ぐべきであります、

森田喜一郎

一市三多摩に於ける丁史的今園労働者につきまゝて私は何の模索も出来ぬ、  
 あります、只今出て参りませぬ、かせは何の警察官憲と争ひなすはありませぬ、  
 先づ第一に労働者今園の労働者を何の爲に起したかと云ふ、今又保田に百六十人の産業  
 賃がありませぬ、最高が一萬四千円と云ふのがあります、如斯賃金でどうして一家を  
 養ふ行くのが出来ませぬ、此を申話して頂きたい、又保田工場に於ては幹却協会の  
 結果、賃金の一割減を強行した事がある、此れを云ふは、此れが爲に労働者は先  
 午を打つた事があります、一頂から十頂までを要求を出した事があります、  
 決て此後無理なものはなす、確信がある、此の労働者の勝敗は一市三多摩に大きな波  
 紋を起すものがあります、から一致結束して、お木下を断行(注意) 吾々は此